

環境マネジメントシステム導入報告書

（宛先） 京都府知事	2025(R7)年 7月 14日
住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	氏名（法人にあっては、名称及び代表者名）
〒624-0906 京都府舞鶴市宇倉谷660	日之出化学工業株式会社 代表取締役社長 三宅 憲雄 電話番号：0773-75-1450

環境マネジメントシステムの名称	KES ステップ2
適用範囲	日之出化学工業株式会社 本社・舞鶴工場
導入年月日	2012(平成24)年 8月 1日
認証番号	KES2-0622
基本方針	日之出化学工業株式会社本社・舞鶴工場は、磷酸質肥料の製造に係わる全ての活動、製品およびサービスの環境影響を改善するために、環境マネジメント活動を推進して地球環境との調和を目指します。
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標（以下「目標」という。）	(1) エネルギー原単位の向上 (2) 総合排水中の有害物の低減 (3) 産業廃棄物の削減 (4) 品質クレームの低減 (5) 改善提案活動、ヒヤリハット報告の活性化
目標を達成するための取組の内容	(1) エネルギー原単位の向上 -①平炉安定操業によるエネルギー原単位の改善 -②加工部門における省エネ取り組み (2) 総合排水中の有害物の低減 -①フッ素イオンでの監視方法の確立 -②排ガス洗浄工程の管理強化 -③中和処理工程の管理強化 -④異常発生時の原因究明と対策 (3) 産業廃棄物の削減 -①廃プラスチックの有価物化 (4) 品質クレームの低減 -①根本的対策となる設備改善の計画 -②保証成分の確保 -③異常発生時の原因究明 (5) 改善提案活動、ヒヤリハット報告の活性化 -コストダウン、工程改善、安全対策、工場美化、環境負荷低減
目標を達成するための取組の進捗状況	(1) -①平炉原料変更に伴う粉砕機トラブル、原料輸送機トラブルによる大きな停止ロスがあった。 (1) -②2023年6月に発生した中間製品サイロ傾斜事故により応急的製法（増エネ）を余儀なくされているが、空転機器停止の徹底等、可能な範囲で増エネを抑制。また、復旧についても計画し、2025年度8月に完工予定。 (2) -①管理基準に基づき監視継続。異常排水時自動回収ポンプ作動条件をより安全方向に見直し。 (2) -②排ガス洗浄ノズル閉塞等不具合発生の都度、迅速に対応した。 (2) -③高濃度酸性汚水処理時、中和処理工程の前段で事前処理を行い安定化。 (2) -④異常発生なし。 (3) -①継続的に実施。 (4) -①袋詰め機局排ラインの見直しにより集塵強化。 (4) -②仕込み原料成分の管理強化を継続的に実施。 (4) -③20kgポリ袋が裂けるクレームが発生。紫外線による劣化が原因と判明し、長期保管時に配慮いただく様アナウンス。 (5) 特にヒヤリハット報告を安全活動の核とし、表彰制度や部門別目標設定等、社内全体で活動展開継続。
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	(1) 目標2023年度比3%改善に対し、1.8%悪化で目標未達。平炉原料変更により原料粉砕性が大きく悪化し、粉砕機稼働時間増により動力が増加。また、生産調整やトラブルによる稼働率低下も影響した。 (2) 異常排水の発生は無かったが、目標値の超過が時々発生する為、警報設定や異常排水自動回収ポンプ作動条件見直しによる管理強化を図った。 (3) 目標達成。継続して努力する。 (4) 品質クレーム1件発生（袋の劣化による裂け）。原因解析に時間を要したが対応できた。 (5) 改善提案とヒヤリハット報告の総計件数は前年度を下回ったが、月平均では目標達成。ヒヤリハット報告件数の増加は高評価。
事業活動に係る法令の遵守の状況	・公害関係の環境測定結果を3ヵ月ごとに舞鶴市へ報告。
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	(1) エネルギー原単位の向上については、基準年度を2023年度から2024年度に変更し、基準年度比3%向上を目標に設定。 (2) 総合排水中の有害物の低減については、排水Fイオン濃度の目標ピーク値を引き続き5.1ppmとし、管理強化に努める。 (3) 産業廃棄物の削減については、引き続き2022年度実績値以下を目標とする。 (4) 品質クレームの低減については、目標を引き続き1件以下/年とし、クレーム撲滅を目指す。 (5) 改善提案活動、ヒヤリハット報告の活性化については、目標件数を引き続き39件以上/月として取り組む。

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムの内容について第三者の認証を受けている場合にのみ記入してください。